(様式)

議会運営委員会行政視察報告書

委員会名	議会運営委員会	委員名	高花えいこ
視察地	登別市		
調査事項	オンライン委員会及び本会議におけるオンライン質問等について		
視察年月日	2024年10月15日～16日		
視察内容	<p>説明者—登別市議会 辻ひろし議長</p> <p>■はじめに登別市議会の議会改革について説明がありました。</p> <p>議会改革度ランキング2年連続全国1位の登別市。市議会では現状の課題を解決するために様々なことを実行されてきた議長が多く、その背景には議長選挙に議長公約・所信表明を話すことになっており(中継・議事録あり)2年間で何をするのかという目的が明確でした。</p> <p>また、開かれた議会とは、「多様性のある議会の実現」であり、若手、政治未経験者、女性など活躍できることが重要であり、ともすると、今のシステムに支配されていないかとの視点で、コツコツと進めてきたそうです。</p> <p>■議会改革の始まりはIT化の推進から—平成12年から、議会のHPはクラウド上で作成しており、PCやタブレットをなんのために導入するのかを忘れず、平成14年から質問の際にPCやタブレットで調べながら質疑を行っており、平成18年に「議会改革推進委員会」を設置されていました。そして平成19年から「市民との意見交換会」を実施開始(本市は平成23年からの実施)。本会議においての一般質問は本市と少し違い、登別市の一般質問は片道45分(本市は25分)と長く、まず一括質問、一括答弁のあと一問一答の仕組みでした。この方法は全国でも珍しいと思います。さらに、平成24年度から「議会サポーター制度」を開始しており、重点的に専門家や市民サポーターの声を聞き、議会改革に取り組まれていました。議会基本条例のPDCAサイクルとして、議会の広報誌もHPに情報公開して、驚いたことに、委員会の資料などを市民へ情報共有されていました。本市にはそのような発想はなかったと思います。情報公開・情報共有という言葉は何度も発言されていたのが印象に残りました。</p> <p>■オンライン委員会「議会事務局職員提案制度」導入へ</p> <p>令和2年度から、文書の脱ハンコを機に完全ペーパーレス化を推進され、グループウェア・サイボウズ office を導入して、本会議・委員会の日程調整および民間企業向けサービスなど発信しています。</p> <p>■「コンプライアンス強化」「議員の見える化」へ</p> <p>令和に入ってから、議会資料のQRコード化(これは傍聴者からの声があって実現)。</p> <p>また、議会および議員活動のオープンデータを作成。そしてオンライン一般質問も規定するなど先進的な改革を次々に推進されていました。</p> <p>■なりすまし防止対策について</p> <p>本人確認も携帯でやりとりしており、なりすましも出来ないと思っている。Zoom がとぎれた</p>		

としても暫時休憩すればよい。もし、バッテリーが切れた場合も退出宣告すればよい。というお考えで、大切なことは、「多様な意見を聞くため」であると何度も言われていました。

■オンライン委員会について

コロナ対策ではなく、あくまでも参加できない場合のものであると念押しされ、委員会にどうしても出席できない人が参加できるようにすることは、多様な議会の表れであると強く言われていました。例えば、出産、育休中などの理由ではなく、彼女(彼)ならではの意見が聞けないことにならない様にオンラインで参加できる仕組みであると伺い、これが先に聞いた「多様性のある議会の実現」のひとつであると思いました。「登別市議会オンラインを活用した会議に関する運用基準」では、会議開催の前日の午前 10 時までにはオンライン出席申請書を委員長に提出。委員長の許可が必要となっていました。Zoom によるオンラインで出席となりますが、議会で重要な一つである「採決」については委員会では挙手採決のため確認することができるゆえに問題ないとの事でした。

■オンラインは「多様性のある議会」の実現にむけた手法の一つ

・ICT は「道具」であり、使うことが目的ではない。道具は使えるようにするしかなく、何のためにオンラインをするのか、「多様性のある議会」ということをしっかりと提示しているとお聞きし、目的がブレずに実践されていることを痛感しました。実例として、

- ① 男性議員が一般質問を通告。ところが妻と子どもがインフルエンザにかかり、本会議に出席することができずオンラインで質問されたそうです。
- ② 委員会当日の朝、お子さまが保育所をお休みしたところ、お昼には元気になったが、保育所にはもう行けないため議会図書室からオンラインで参加した女性議員がいたそうです。この 2 つの例からわかるように、オンラインは該当者がいる、いないではなく、作っておかなければいけないものであり、それが多様性の議会であると思うと説明を受けました。

モニターを撮影しているので機器の切り替えはしていないそうで、本市とはシステムが違いました。オンラインは議会と相性が良いと思うのであまり課題はないそうです。本市の場合はシステム改修が必要なところであり、新庁舎建設時に先を見越したシステムを導入しておくべきだったと思いました。